

論文要旨

目的： ①メンタルヘルスの問題が生じるリスクが高く、支援が必要な妊産褥婦を助産師はどのように発見し、支援へとつなげているのか、周産期メンタルヘルスの支援における助産師のアプローチを明らかにすること。②周産期メンタルヘルスの支援に対する助産師の認識および支援を行ううえで助産師が感じている課題を明らかにすること。

方法： 本研究は、質的記述的研究である。研究協力者は4名の助産師であった。インタビューガイドを用いて半構成的面接を実施し、質的記述的に分析した。なお、本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得ている(承認番号：16-A054)。

結果： 周産期メンタルヘルスの支援における助産師のアプローチは、スクリーニングツールの活用、既存の情報からの把握、妊産褥婦との関わりからの把握、のいずれかの方法で、メンタルヘルスの問題が生じるリスクが高いと感じる“気になる妊産褥婦”を【見出す】ことから始まっていた。ただし、本研究でスクリーニングツールを活用していた施設は、1施設のみであった。“気になる妊産褥婦”を見出した助産師は、[探索的に話を聞く][チームで情報を共有する][チームで評価する]という過程を経て支援の必要性を【アセスメントする】。助産師で対応できるとアセスメントすれば[身体的支援][心理的支援][社会的支援][継続的支援]を提供し、メンタルヘルスの専門家による支援が必要とアセスメントすれば[専門家との連携][専門家への受診の促し]を行っていた。また、支援に対する認識として[役割の線引き][チームでの関わり]が見出された。つまり、助産師は、周産期精神疾患と診断されていない妊産褥婦を対象に、妊娠・分娩・産褥期という限られた期間の中でメンタルヘルスに関する助産診断や支援を行う役割、およびチームという支援の輪の中で“支援が必要な妊産褥婦”を早期に発見し、可能な範囲で支援を提供し、専門的または継続的な支援が必要であれば他職種につなげるという、周産期メンタルヘルスにおける初期の対応を行う役割を認識していた。さらに、支援における課題として[コミュニケーション][助産師の個人差][支援者へのサポート][地域との連携]が見出された。

結論： 周産期メンタルヘルスの支援において、助産師はチームの中でプライマリケアを担う役割を自負している。今後、メンタルヘルスに問題が生じるリスクの高い“支援が必要な妊産褥婦”を早期に、そして見落とすことなく確実に発見するために、助産師個人の周産期メンタルヘルスに関する知識レベルおよびコミュニケーションスキルの向上、スクリーニングツールの活用や支援者へのサポート体制の強化等の組織としての取り組み、周産期メンタルヘルスの支援に関わる職種間の顔の見える関係作りが課題である。